ニューヨーク補習授業校だより

平成２８年度　第２２号
校 長　青木　正彦

＜ジョン万次郎を訪ねて＞

ジョン万次郎は、土佐の国中の浜（現在の高知県土佐清水市）で生れました。１４歳の時仲間５人と宇佐（USA)近海で漁をしていた時、嵐に会い、鳥島（東京と小笠原諸島の中間に位置する島）に流され、１４３日のサバイバル生活後、アメリカのマサチューセット州ニューベッドフォードを母港とする捕鯨船ジョン・ハウランド号に救われました。船長の名は。ウイリアム・ホイットフイールドといいました。船長３７歳、万次郎１４歳の出会いでした。

途中、ハワイに寄って４人を残し、万次郎だけを連れて、鳥島で出会って２年近く経ちましたが、１８４３年５月６日に母港ニューベッドフォード港に着きました。船長の家はニューベッドフォードの隣のフエア―ヘブンという大変美しい港町にあります。

万次郎２４歳の時、沖縄の摩文仁の海岸に仲間３人と上陸しました。当時日本は鎖国中であり、これから２年半の取り調べが始まったのです。１８５２年１１月１６日、万次郎２５歳の時、ようやく母に会えました。

２００９年５月７日に、フエア―ヘブンで友好記念館の開設式が行われました。これが成功したのも、日野原重明先生（聖路加国際病院）を中心にした、日本の各界の著名人の方々３５名が発起人となっていただいたからです。





万次郎が世話になった船長の家
理事長　ジェラルド　Ｐ　ルーニー氏

第22号の記事は、大塚教頭先生よりいただきました。特に、四国松山出身の教頭先生にとって、アメリカと日本に深い絆をもたらしたジョン万次郎を訪ねたことは、感慨深いものがあったようです。

ジョン万次郎は、日米和親条約の締結に尽力し、東京大学の英語教授になり、数々の偉大な業績を残しました。アメリカで学んだ体験は、坂本龍馬をはじめ幕末の志士や知識人たちに多大な影響を与えたと言われています。

日本とアメリカの二つの文化を学ぶ体験をしたのは、当時は万次郎だけでした。本校の児童・生徒と同じ、高度グローバル人材としての先駆けですね。

七夕様への願い

1　良い人生が送れますように
2　お母さんがわたしにさけばないように
3　こううんが来ますように
4　もっと自分に厳しくなれますように
5　赤ちゃんが無事に生まれますように
6　先生がずっとげん気になれますように
7　もっとねたい
8　補習校の宿題がなくなりますように
9　永遠の１５歳でいれますように
10　家族や友達が健康でいられますように
11　もっときれいな字になりますように
12　優しい奥さんと結婚できますように
13　おじいちゃんがてんごくでしあわせであるように

＜体験入学あれこれ＞

① 日本の小学校は、ひっ算の時、ものさしを使ってきれいに線を引いて、ノート整理、ノートの取り方が 確立されていて素晴らしかった。
② 国語は教科書が違い、しんどかった。
③ 時間が長くてしんどかった。
④ 体育の時間は水泳があって楽しかった。
⑤ 休み時間に広い校庭で遊ぶのが楽しかった。
⑥ 日本の給食はおいしかった。
⑦ アメリカにはないお掃除の時間が楽しかった。
⑧「授業中に水を飲んではいけない。トイレに行ってはいけない」というのは、親子ともども驚いた。
⑨ 日本語が上手になっていくのがよく分かった。
⑩ 補習校にはない授業ができて感謝している。
⑪ 友だちがたくさん話かけてくれた。